



「毛呂山台防犯・防災ネットワーク生活手助け班」の地域活動

特集

地域福祉を考える

～お互いの顔が見える地域へ～

交通網の発達や昨今における

パソコン、携帯電話などの情報網の発達により

人びとはこれまでの地域社会の枠を超え、

さらに広い社会と関わっていくことができるようになりました。

しかし一方では、核家族化などの生活形態の変化、個々の価値観や暮らし方の多様化が進んだことに加え、めまぐるしく変化する社会のスピードに追われて、精神的ゆとりがなくなり、住民相互の社会的繋がりが希薄になってきています。

今、地域社会ではどのような問題が起きているのでしょうか。

いま、なぜ地域福祉なのか

地域社会の課題

ひと昔前まで、様々な問題は家庭や地域で助け合って解決していました。しかし、今日の長引く景気低迷の影響や、家庭や家族の果たす役割意識の低下などにより、地域では、多くの生活課題を抱えている人が増えてきています。生活不安やストレスの増大、自殺やホームレス、孤独死、家庭内暴力、お年寄りや子どもへの虐待、一人暮らし世帯の増加、ひきこもりなどの背景には、ご近所同

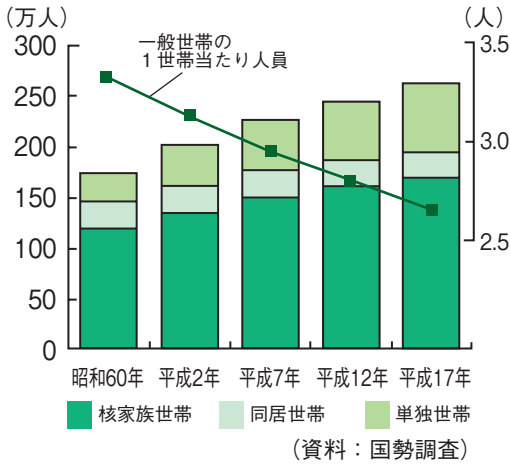
士や親子間の会話など、人と人が直接ふれあう機会が少なくなり、社会が人と人が互いに支え合って成り立っているという意識が希薄になってしまい、とかく自分のことだけに関心を向けてしまいがちな傾向にあることも一つの原因としてあるのではないのでしょうか。
 日ごろの生活で課題と感じているうちのいくつかは、もしかして、ご近所や地域との関係がうまくいっていただけなら、不満に思わずにすむこともあるかもしれません。

求められる地域福祉

これからの福祉は、住民すべてにとっての福祉として、従来のような生活困窮者、障害者、高齢者の保護や救済にとどまらず、子育てや高齢者の介護など、誰もが抱える、あるいは、抱えるかもしれない生活課題について、その解決のために、住民すべてで支えていく福祉に変わっていく必要があります。

しかし、そのような地域社会を創っていくためには、行政だけでは限界があり、福祉の問題を自分自身のこととして、地域社会を構成する住民一人ひとり、ボランティアや各種団体、行政などがお互いに連携・協力して行う必要があります。住民一人ひとりが福祉に対する理解を深め、地域での各種活動に積極的に参加していただくなど、行政だけではなく、地域で活動する団体や事業者、住民が様々な情報を共有し、それぞれの役割を果たしながら、一体となって取り組んでいくことが求められてきています。

一般世帯の世帯構成および1世帯当たり人員の推移（埼玉県）



共助（互助）の必要性

進む高齢化社会

現在、毛呂山町では高齢化率が20パーセントを超え、5人に1人以上が65歳以上となっています。そのうち800世帯以上が高齢者単身世帯となっており、今後ますます増加していくことが予測されています。

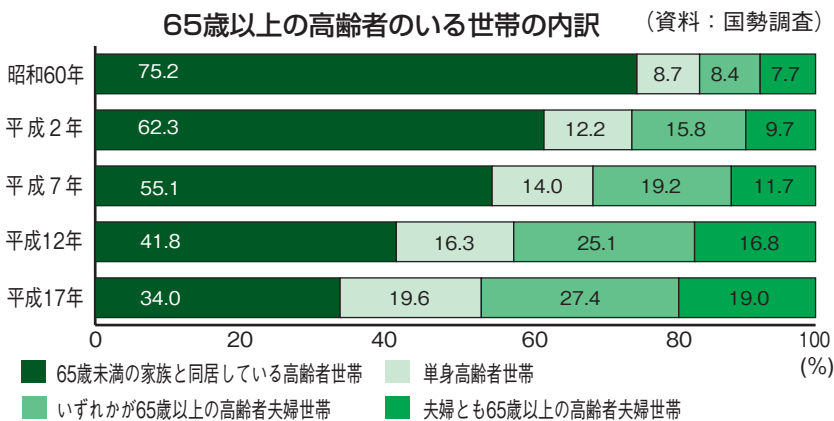
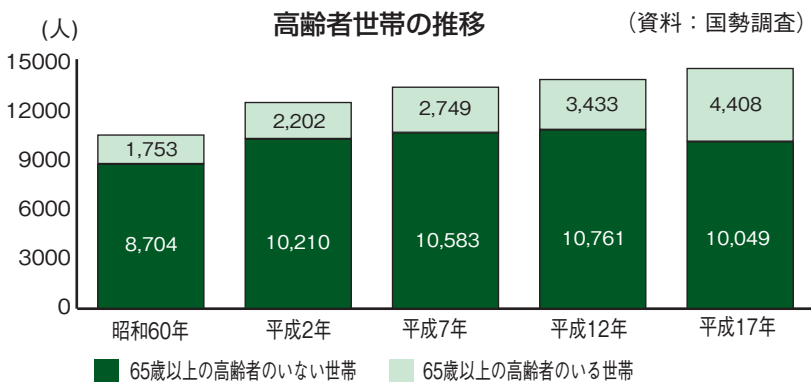
このようななか、町内でも地域とのコミュニケーションがあれば救われたかもしれない命も、残念なことですが、孤独な死を迎える結果になってしまうことが年に数件発生しています。このようなことから大切なことは、「いずれはわが身」と捉え、地域で孤立している人、孤立してしまいそうな人に対し、どのようにしていけば力になることができるのか、これからは、地域と行政が協働（連携）し、「助け合い」の仕組み作りを進めていくことが必要となっています。

共助（互助）の必要性

このような時代だからこそ、今一度、住民一人ひとりが自分でできることは自分でする『自助』、

そして、とくに、「困りごとはお互い様」という気持ちでお互いに助け合っていく『共助（互助）』について考えていくことが大切です。そもそも、人は一人で生きているのではなく、周りの助けにより生きています。そこに住む住民も行政も目指すところは、住民一人ひとりが

幸せになることです。そして、幸せになるためには、みんなで「助け合い」をしていくことが不可欠です。そのためにもまず、一人ひとりが『共助（互助）』についての意識を高めていくことが、必要となってきています。



民生委員・児童委員を知ってください、相談してください



毛呂山町民生委員・児童委員協議会 小林康三郎会長

今日、隣近所の付き合いが薄くなっていくように感じます。隣近所に限らず、身内も身近にいないため相談する相手がいなくなっているのではないのでしょうか。核家族化が進み、昔のように親と同居している人が減り、色んな悩み事を相談できる人が身近にいない、誰に相談していいかわからない。そんな人が増えていくように感じます。

そのためには民生委員・児童委員をもっと知っていただきたいと思えます。仕事の内容を知っていただき、正しく理解してもらったうえで、住民の皆さんに積極的に相談してもらいたいと考えています。私たちのことを「ちょっと面倒見のいい、近所の仲間」と思ってください。私たちは守秘義務などの法律を遵守しつつ、住民の皆さんと対等な立場で、皆さんの様々な相談と一緒に解決して行けるように活動しています。

地域福祉活動が始まっています

地域活動の主な活動として、地域内の見守り活動があります。地域内における見守り活動は、すでに第二団地、毛呂山台および双葉団地などで始められています。

◆第二団地地域みまもりネットワーク

平成20年4月から活動を開始し、65歳以上の高齢者のみの世帯を対象に「みまもりネットカード」と「マップ」を作成して、いつでも声がけできる体制づくりを進めています。

◆毛呂山台防犯・防災ネットワーク生活手助け班

平成21年4月から生活手助け班を設け、日ごろの防犯や登下校時のパトロールだけでなく、高齢者などの世帯に対して、普段のゴミ出しなど身近な困りごとを助ける活動を始めています。

◆双葉団地災害時ひとりも見逃さない運動

平成20年12月ごろから災害時に援護を必要とする人の把握を始め、現在は把握した人を見守る人まで決まりました。今後は、運動に必要なものを徐々に整備していく予定です。

日々の暮らしに安心感！

私の住む地区は、比較的隣近所との付き合いも盛んで、大変住みやすいと思っていましたのですが、昨年「第二団地地域みまもりネットワーク」が発足し、今ではさらに日々の暮らしに安心感が増したと感じています。夫だけでなく息子ともよく話をするのですが、普段からなにかと気にかけてくれて、何かあったときに呼べば、助けに来てくれる。そういう人が身近にいるとそれだけで安心して暮らせるようになったと思います。

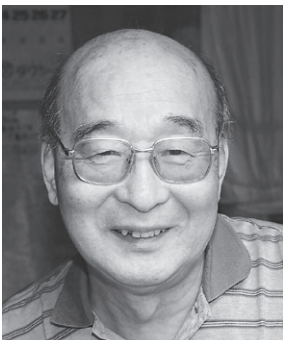
昔は、大家族のため家族内で助け合うことができ、自分の家のなかで出産や葬儀が行われましたが、時代が移り変わり、今は核家族が進んでなかなかそういうわけにはいけなくなりました。だからこそ、安心して暮らせるのも周りの人のおかげであると考え、見守られる立場の人は、もっと地区の人、隣近所の人に甘えるところがあってもいいのではないかと思います。言いかえれば自発的に助けを求めることも必要だと思えます。



かじかわ としこ
梶川 壽子さん
(第二団地)

地域福祉の発展に期待！

近年、近所同士の付き合いが希薄になり、近所に住んでいる人の顔でさえわからなくなってしまう地域も見られます。そのため、地域内の見守り制度は歓迎しています。身体の具合が悪くなるとゴミ出しでさえも大変なときがあります。そんなときに近所の人に声をかけてもらい、ゴミ出しを手伝ってもらって、うれしかったことがあります。日々の暮らしについて自分のことは自分でするのはあたりまえですが、本当に困ったことがあるときに頼れる人が近所にいると助かります。現在住んでいる地区は以前から隣近所が協力的で助かっていましたが、今年の4月から「毛呂山台防犯・防災ネットワーク生活手助け班」が始まり、以前にもまして声をかけてもらう機会が増えました。まだ始まったばかりの制度ですが、このような制度が町全体に広がっていき、皆の協力でそれぞれの地域がよくなっていくことを期待しています。



あきもと あきお
秋本 明男さん
(毛呂山台)

地域でできることを考えてみませんか

日常的な支援が必要です

地域には、子どもから高齢者までさまざまな人が暮らしています。生活習慣や価値観の多様化、また、核家族化などにより、かつてのような住民相互のつながりが

希薄になってきているなか、誰もが地域でその人らしく生活していくためには、ひとり暮らしの高齢者、障害者、子育て中の家庭など、支援を必要とする人を地域で見守るなど日常的な支援が必要となっています。

皆が住みよい町へ

町では、今後、高齢化の進むなか、個人情報について管理徹底を図りながら、住民の皆さんの理解を得て、「自主防災組織」の立ち上げ、また、地域での「見守りネットワークづくり」および「災害時における要援護者の把握」について、民生委員・児童委員協議会などのボランティア団体と連携しながら進めていきます。

現在、すでに住みよい町づくりのために活動されている人もたくさんおられますが、自分たちの住む町を自分たちで創っていく、自分たちの住む町を愛する人が一人でも多くなれば、その町は、必然的によくなっていきます。

また、町には地域福祉について示した「地域福祉計画」があります。この計画も高齢者、障害者、子どもなどと対象者ごとに捉えるのではなく、自分たちの住む地域という舞台で、そこに住む人びとが共に支えあい助け合い、各種ボランティア団体、民間団体、行政が協働していくことで、暮らしやすいまちづくりをすすめていくことを目的としています。

— 地域におけるほんの些細なことに目を向ける —

一人ひとりのちょっとした気持ちがすべての人にとって住みやすい町へとつながっていくきっかけとなります。その気持ちを大切に、まずは一歩足を踏み出してみませんか。

しかし、このような運動も、暮らしのなかでの課題や悩みを皆で話し合ったり、自分たちにできることを考え、お互いに手を貸したり気遣ったりすることから始まります。「ご近所の一人暮らしのお年寄りを最近みかけないけど、どうかしたのかな・・・」、「近所に住んでいる若いお母さんが子育てで悩んでいるようだけど、話しかけるきっかけがなくて・・・」、「地域でボランティアをやってみたいけど・・・」など、そんなちょっとした気持ちを大切にすることが重要です。



「第二団地地域みまもりネットワーク」防犯パトロール

「毛呂山町地域福祉計画」を見直します！

「地域福祉計画」とは

「地域福祉計画」は、地域の高齢者、障害者、子育て家庭など支援を必要としている町民を地域全体で支え、誰もが住み慣れた地域でその人らしい自立した生活が送れるような仕組みづくりを示したもので、社会福祉法第107条に規定された地域福祉の推進に関する事項を基に策定されたものです。

自分たちが住む「地域」を中心として、子どもからお年寄りまで、障害のある人もない人も、そこに住む全ての住民が地域において生き生きとした生活が送れるよう、行政、社会福祉協議会などの関係機関はもとより、NPO法人・ボランティア関係者など、社会福祉に携わる人

たち、そして何よりも地域に住む住民が主体となって考え、実行していこうとする内容を明らかにしている点が特徴としてあげられます。

他の計画を総合化したものです

毛呂山町には、「高齢者総合計画」「障害者福祉計画」「次世代育成支援対策行動計画」「健康増進計画」などがありますが、これらは、「住民の皆さんの、意見を聴き、寄せられた生活上の課題を解決するために、行政機関は、これから、このようなことをしていきます」ということを示したもので、これらの計画には「行政がこれから、いつ、何をするか」が掲げられています。

一方、「地域福祉計画」は、単に行政が行う施策を示すだけでなく、住民一人ひとりが地域で暮らしていくためには「何が必要で、何をしなければならぬか」、「それを誰が行っていくか」、「それぞれの役割分担をどうしていくか」、「それぞれの連携をどう図っていくか」などをとりまとめていったものです。したがって、「地域福祉計画」は、「高齢者総合計画」のように対象者ごとに捉えるのではなく、「地域」という広い視点からそこに住む住民の様々な生活課題について、住民や行政、関係機関などがともに連携しながら解決していくこととする方策について、その具体的内容を示したものです。

「地域福祉計画」を見直します

本年度から「地域福祉計画」の見直し作業が行われます。見直すにあたっては、行政の考えだけでなく、地域社会を構成する一人ひとりの町民、ボランティア、NPO法人、各種団体などの多くの意見を参考にし、または取り入れ、皆が住みよいまちづくりのための計画づくりを進めていきたいと考えています。

現行地域福祉計画の基本理念・基本目標

現行の「地域福祉計画」では、地域福祉の推進にあたり、次に掲げる理念・基本目標のもとに、お互いに支えあうという意識を育みながら、ご近所、地域とのより良い人間関係を構築し、誰もが主体的に活動できる環境づくりに取り組んでいます。

◎基本理念

「住み慣れた地域に自立し、役割をになっ
て調和を築く、その住民の安心と活力の町」

◎基本目標

I 安心と信頼のまちづくり (情報交流)

みな同じ住民として生活する権利を、だれにも等しく保障することを目指します。

II ふれあいのまちづくり (住民協働)

住民一人ひとりが地域の課題に関心を向け、住み慣れた地域での役割を自覚して、生活を良いものにするために参加を目指します。

III 安全とうるおいのまちづくり (環境整備)

住民の生活環境を豊かにすることで、尊厳ある生活の基盤づくりを目指します。

IV 自立と生きがいのまちづくり (自立支援)

住民一人ひとりがその人らしさを尊重されながら、自立した生活が送れることを目指します。

皆様のご意見をお寄せください！

◎意見募集

- ・地域福祉としてどのような生活課題がありますか
- ・生活課題の解決に向けてのアイデアや提案がありますか

◎提出方法

7月31日(金)までに電子メール、ファクス、手紙でお寄せください。いただいた内容は、地域福祉計画見直しの参考にさせていただきます。

◎提出先、問合せ

役場福祉課地域福祉係
☎295-2112内線111、112 FAX295-2126
〒350-0493 毛呂山町中央2-1
✉fukusi@town.moroyama.saitama.jp